

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 4月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774500504		
法人名	社会医療法人 栄公会		
事業所名	グループホーム栄公		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒598-0013 大阪府泉佐野市中町3-3-46		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成22年 5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体の社会医療法人では、病院、介護老人保健施設、各在宅サービスを運営している他、系列の社会福祉法人では、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、認知症高齢者グループホーム、各種在宅サービスを運営し、相互の連携により入居者並びにご家族の現在及び将来の生活をバックアップする体制を整えています。当ホームの基本理念である「家族、地域との連携を大切にし、信頼関係を築きます」「ゆったり、のんびり、そして明るい楽しい生活を目指します」「個別ケアを大切にします」を職員に周知徹底しています。食事(旬の食材)や装飾物(季節の花や置物)展示物(習字や色鉛筆画)、外出や散歩によって季節の移り変わりを五感で感じ取ってもらえるように工夫しています。日々の暮らしの中で、本人やご家族が自由に希望や意向を発してもらえよう、環境づくりに心がけています。入居者一人ひとりの状態を把握し、自立支援を図る為に入居者のレベルに応じた支援をさりげなく行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

社会医療法人栄公会並びに社会福祉法人アムリタは、医療・保健・福祉のトータルサービスを提供されています。グループホーム栄公は、住宅街にあり地域に密着した2階建ての施設です。1階2階に9床ずつ計18床あり、とても日当たりの良い環境で清潔な室内、共有スペースは明るく手作りの作品が多く飾られていました。また家庭的な雰囲気与生活感溢れ五感を大切にされていました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいた具体的な事業の目的や運営の方針等が記載された事業計画書を配布し、月次の会議で確認するなど、職員に周知徹底を図っている。	職員全員が利用者の立場に立った個別ケアを大切に具体的なケアに取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として地元自治会の賛助会員になっていることもあり、自治会開催の行事に招待していただき利用者の皆さんが参加している。	地域の行事に積極的に参加し、また自治会の親睦会にも招待され参加するなどされ、日常的には散歩や買い物に出かけ、地域の方との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟し、協議会を通じて泉佐野市社協地域包括支援センターと共同で一般市民を対象に「認知症高齢者をみんなで支える」講座を開催するなど、地域における認知症理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価や外部評価結果の報告、普段の生活状況等について話し合い、利用者や家族からの意見や要望については、業務改善に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回のペースで行い、自己評価・外部評価の結果を報告し、業務改善に取り組まれています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者には介護報酬改正後の加算算定要件について相談したり、地域包括支援センターの職員に口腔体操の講師に来ていただいたりしている。	市の職員方と積極的に意見や相談をされ協力関係を築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	月1回グループホーム職員会議で身体拘束廃止について話し合っている。また、玄関ホール扉はテンキー操作になっていてが暗証番号を貼付している。	日々利用者ひとりひとりの状態変化を職員の申し送りで伝え、また玄関にはテンキーロックはあるも施錠せず自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの依頼で、自宅で虐待が見られた方の緊急の入居相談があり、満床のため併設の介護老人保健施設で待機していただいている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族による契約が困難であったケースがあり地域包括支援センターとの連携で入居者との契約を交わしたがその後、成年後見制度の活用となった。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容、責任者や担当者、利用料金など利用申込者のサービス選択に資すると認められる重要事項を文書で入居者や家族に説明した上で、同意を得て契約を交わしている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員を設置している。また、アンケート調査も定期的に行い、調査結果については会議で話し合い、今後の運営に反映させている。	利用者の家族も運営推進会議にも出席され、また4ヶ月に1回、定期的にアンケート調査を実施し、サービスの質の確保と向上のため、話し合いに取り組んでいます。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	管理者及び職員により月1回グループホーム会議を行うとともに、重要な案件については福祉部長の出席を得ている。なお、事業計画策定においては全職員の意見を聴取し立案している。	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会を平成21年9月に設立し、事業所内での会議を行い反映しています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や実績、勤務状況が待遇に反映されるシステムを構築している。また、給与水準等については、近隣事業所の待遇を参考にしている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて内外研修を行っている。また、研修参加者は必ず復命書を提出し、評価を行っている。なお、資格取得に向けての勉強会実施など支援している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会開催の認知症研修会に参加するとともに、相互研修（交換実習）を実施している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が居住している住居まで出向き、本人に直接会い、話し合う機会を十分に設け、本人からの要望をしっかりと聞き、希望により見学していただいている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族には、入居前に必ず見学を兼ねてホームまで来ていただき、じっくり話を聞いたり、困っていること、不安なこと、今後の生活での希望などについて話せる機会を設けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険被保険証を確認するとともに、入居申し込みに至る経緯、生活や対人関係、本人や家族の希望等を見極め、安易に入居を勧めるのではなく、他のサービス利用も含めた対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活暦や人生観を導く話をし、会話の中で自然な形で役割や分担を見出し入居者同士が支えあい、励ましあう関係を築いている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時や電話などで、家族が気軽に意見や会話ができるよう、雰囲気づくりが心がけている。また、家族参加の行事も開催している。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とお墓参り、外食などにも行かれたり、親戚、知人などが気軽に当ホームに来られるよう支援している。家人にも協力をしている	利用者と散歩に出かけたり、地域に暮らす馴染みの知人・友人が来られたり、グループホーム内の畑を手伝ってもらったりと良い関係作りを築かれています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が共同生活が送れるよう共有スペースに配慮し、家庭的な雰囲気づくりに心がけ、入居者同士が話しやすいように工夫している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても連絡するとともに必要に応じて訪問し、看護師、医師等との連携を図り、入居者や家族との関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用が終了しても定期的に訪問し、看護師、医師等と連携をとり、入居者や家族との関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	利用者ひとりひとりの状態変化に気づき、申し送りで速やかに対応させております。また職員は利用者のペースに合わせゆったりと一緒に時間を過ごす関わりをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人の生活歴や活動意欲の触発する馴染みのものを用意し、本人の経験や状況に応じて、サービスの利用経過や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族と話し合い、出来る事出来ないこと、好きなこと嫌いなこと、一人ひとりの心身状態を把握し、総合的に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきやアイデア、本人や家族の意見を日常的に聞き、カンファレンスには本人並びに家族にも参加していただき意見交換を行っている。	定期的に本人・家族・職員とがよりよい暮らしをするため話し合い、その結果で介護計画を作成し、見直し評価を実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践記録や経過記録を作成し、ケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1対1での外出や買い物、室内レク、日常生活でのリハビリなどを提供している。2ユニットの特性を活かし合同のレク、おやつづくりも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸、色鉛筆画のボランティアに来ていただく等、地域住民の協力を得ている。また、消防署職員立会いのもと夜間火災発生時を想定した避難訓練も行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に往診をしていただいている。地域の内科医との連携も行っている。必要に応じて歯科医の往診も依頼している。	母体が社会医療法人の為、同法人の佐野記念病院、また協力医の他、本人・家族の希望により受診・通院と医療機関との関係を密に結んでいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	管理者は看護師なので日常の健康管理が出来ている。自法人で病院を運営しているので、心身の変化や異常発生時に24時間対応できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員が面会に赴き、医師、看護師に本人の様子や退院見込みを確認するとともに、今後のホームでの生活についての注意事項等、情報提供を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて早い段階からカンファレンスを行うとともに、本人や家族の意思を確認しながら医師と話し合いを行っている。	日頃から家族や本人・職員との話し合いを持たれ、入院されてからも職員は利用者に会いに行かれたりと、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備え、連絡先、対応手順等を定めた対応マニュアルを作成し職員に周知している。すぐ主治医に連絡がとれる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当ホームが所在する自治会では、防災組織を設立準備中である。運営推進会議の際に地域の人々の協力を得られるよう話し合っている。	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っています。また地域の協力体制については、現在設立準備中です。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修に参加したり、個人情報保護についての話し合いを行っている。入居者個人の培ってきたライフスタイル、価値観を尊重することを職員に徹底している。	利用者の尊重と自立した生活を営めるよう、言葉かけや自己決定に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりできるように、日常的に選択できる場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで無理なく、希望に沿って生活が送れるような環境づくりを行っている。職員に対し、いつでも話しかけられるような雰囲気づくりを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の都合で衣服を決めるのではなく、本人自身に選択していただけるよう声かけをしている。衣類が汚れた場合は、他の入居者のいない所でフォローしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に応じて調理、盛り付け、配膳、後片付けの過程に参加していただけるよう支援するとともに、月1回行事食等楽しめる食事を心掛けている	共有スペースにキッチンがあるため調理での音や匂いが五感の刺激となり、また四季折々の献立作りや、その日の気候に合った物、利用者に応じた対応等工夫されています。2ヶ月に1回外食にも行きまわられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	母体の老健から献立表をもらい、それを参考にして献立を考えている。入居者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個々にあった歯磨きの誘導、介助を毎食後行い記録している。治療が必要な入居者は歯科医に往診してもらっている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄誘導者には早めの声かけを行うとともに、排泄時間を記録するなど排泄のチェックを行っている。必要に応じてポータブルトイレを置き排泄の自立支援を行っている。	個別の排泄パターンに応じた支援を行い、ひとりひとりのサインを職員が把握し、さりげなく支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂取したり、乳製品の摂取、食物繊維の多く入った食事を心がけている。排泄表を作成し、排便の有無の確認を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人や家族の希望を聞き入れながら、一人ひとりの希望に応じ、入浴を楽しめるよう支援している。	利用者・家族の意向に沿った入浴の支援とできる事とできない事を見極め、プライバシーを守り、取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの記録や睡眠チェック等で睡眠パターンを把握している。眠れない入居者には、無理に睡眠促すのではなく、話を聞くなどして不穏を取り除いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用する薬の目的や副作用、用途や用量を「お薬手帳」などにより周知しており、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体面の機能低下や特徴を理解し、レクリエーションや買い物、散歩、調理や家庭菜園など無理なく楽しめるよう支援している。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりのその日希望に沿って、買い物、散歩などの支援を行っている。外出が困難な方に対しては、庭にある菜園で過ごすなど気分転換を図っている。</p>	<p>個別の散歩を行い、地域の方とのコミュニケーションをはかり、グループホーム内の畑での作業で気分転換やストレスの発散で五感の刺激に努めています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力量に応じて、買い物の楽しみ、お金を持つ安心感を味わえるよう支援している。支払いなど出来る方にはお金を支払ってもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の利用については本人の希望に応じてホームの電話を利用していただくとともに、入居者が作成した季節の絵手紙を家族に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者同士が共同生活を送れるよう共有スペースに配慮し、入り口には大きな手作りカレンダーを飾るとともに、入居者と職員で月々のちぎり絵を作成するなどしている。</p>	<p>共用の空間はとても明るく清潔で、熱帯魚の飼育や利用者の作品の展示、カレンダー・貼り絵・習字等、生活感のある温かい家庭的な雰囲気です。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング以外に玄関ホールや廊下にもソファを置き入居者同士で話ができる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談し、家族に馴染みのものを持ってきていただいたり、季節の装飾を飾ったりしている。</p>	<p>居室のベッドとタンスは備え付けの物ですが、それぞれ使い慣れた物を持参され、居心地の良いその人らしい居室です。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの身体機能にあわせてすべり止めや手すり等の設置に加えて、キッチンや浴室、トイレについても入居者の使い勝ってへの工夫を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない